

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(1)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
2 基礎・基本の徹底と学力の向上 3 進路指導の充実	生徒の実態を把握し、基礎学力の向上に努めるとともに、生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ態度を醸成する。 ○個々に応じた教科指導を充実させる。 ○面談の充実で生徒の意欲を高める。 ○学力向上のための様々な工夫を体系的に行う。 ○授業力向上のため、授業研究・研修を行う。 個々に応じたきめ細やかな進路指導を行う。 ○キャリア教育などにより、進路目標決定への支援を行う。 ○目標設定を促す丁寧な指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた教科指導を行い、面接を充実させることで生徒の意欲を高める。 ・学力向上のため松高セミナー、補習、課題テスト、週末課題、模試等を活用する。 ・授業研究週間や県外予備校等での研修を活用し、授業力の向上を図る。 ・早期に将来の夢の実現に向けた目標を設定させ、夢を叶える進路指導を推進する。 	生徒一人ひとりの最適な進路実現のため、教育課程に選択科目を設けるとともに、大学、短大、専門学校進学や公務員試験・企業就職等に対応できる補習等を開設する。 各学年に習熟度の高い応用クラスを、希望制により2クラスずつ設置する。 応用クラスにおいては、英語表現Ⅰ、数学Ⅱ、英語Ⅱの授業では少人数制による授業を実施する。 平常の学習活動を期末考査の総合評価に取り入れる。 プロジェクトK（総合的な学習の時間）を計画的に実施し、進路指導を充実させる。 1・2年生全員対象の松高セミナー(8:00～8:25)、3年生希望者対象の早朝補習(7:50～8:25)、全学年希望者対象の放課後補習(15:50～16:35)を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の文系コースには多様な選択科目を設けるとともに、3年の補習等では、進路別・習熟度別の講座を開設した。 ・また、英数国においては、可能な限り習熟度による少人数授業を実施した。プロジェクトKの取組、松高セミナー等も改善しつつ継続した。 ・今年度は特に、「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」の指定を受けたことにより、教育コーチング研修をはじめ6名が県外校を視察する等、教員研修を充実させることができた。 評価（A）	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」の指定をうけるため、松高セミナーなど、本校の学力向上策の改善を図り一層効果的なものにしていく。また、その効果について検証し、生徒の実態とニーズに応じたものとする。 ・新教育課程が一巡するので、次年度に向けて課題の検討と改善案に取り組む。 ・前年度の研修成果を、面談や授業実践に生かしていく。 ・進路意識を早期に高めていく方策を検討する。 	学校全体
		家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を30%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする。セミナー出席率・週末課題提出率をともに80%以上とする。(1学年)	個人面談を実施し、生活・学習記録からみえる生徒の実態を分析し、具体的な指導を行う。週末課題の提出を月曜日の朝SHRでさせることを徹底し、月曜セミナー小テストにおいてその学習の成果を実感させるとともに、週末の家庭学習時間を伸ばす。(1学年)	家庭学習時間 2時間以上の生徒 11% 1時間未満の生徒 65% セミナー出席率 89% 週末課題提出率 87% 評価（C）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた週末課題の内容について検討する。 ・家庭学習時間を増やすために、早期に進路目標を持たせるための取り組みを行う。 	1年
		家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を30%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする。セミナー出席率・週末課題提出率をともに80%以上とする。(2学年)	面談や生活・学習記録から生徒の実態を分析し、学習方法など個々に応じた具体的な指導を行う。週末課題を月曜日の朝提出させることを徹底し、月曜松高セミナー小テストにおいてその学習の成果を実感させるとともに、週末の家庭学習時間を伸ばす。(2学年)	家庭学習時間 2時間以上の生徒 24% 1時間未満の生徒 54% セミナー出席率 79% 週末課題提出率 67% 評価（C）	学習理解度や進路希望の幅が広く、松高セミナーや週末課題の内容に工夫が必要。	2年
		家庭学習時間の確保。家庭学習時間2時間以上の生徒30%以上。1時間未満の生徒を30%以下とする。早朝補習出席率を80%以上とする。(3学年)	個人面談や生活・学習記録・進路希望調査等から生徒の実態を分析し、個々の進路実現のため、具体的な目的意識を持って学習に取り組ませるよう、細やかな指導を行う。学習方法などについても具体的な指導を行う。(3学年)	家庭学習時間(平日) 2時間以上の生徒 29% 1時間未満の生徒 50% 評価（C）	登録後の進路に応じての変動等多く出席率を出すのは難しい。必要な科目等進路について十分調べさせてから補習登録をさせるようにする。	3年

評価（達成度） A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（50%程度） D：まだ不十分（30%前後） E：目標、方策の見直し（20%以下）

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(2)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
		授業評価の「授業の内容を理解できている」、「授業に興味や関心を持っている」、「授業に積極的に参加できている」生徒の割合を70%以上とする。学習到達度を向上させる。(国語)	ノートの取り方や副教材の活用の仕方を繰り返し指導する。週末課題や課題テスト範囲の問題集などに計画的・継続的に取り組ませ家庭学習を充実させる。定期的に漢字・語句の小テストやコラム書写を実施し、基礎学力の定着を図る。(国語)	「理解できている」81% 「興味・関心を持っている」78% 「積極的に参加できている」76% 評価(A)	基礎学力の向上を図る指導を計画的に行うとともに、週末課題等の提出を促すことで、積極的に家庭学習に取り組ませる。	各教科
		授業評価の「理解できている」「興味・関心を持った」生徒の割合を、ともに76%以上とする。(地歴・公民)	授業の受け方を身につけさせる(毎時間忘れ物チェックをする)。プリントなどを用いて理解度を確かめる(使用プリント・小テスト等は誤答を直させ、正しい知識の定着を図り、すべて評価の一部とする)。新聞を利用した学習を実施する(おもに現代社会でほぼ週1回は新聞記事を題材にする、また年2回の作文課題のうち1回は新聞記事を題材に使うように指導する)。(地歴・公民)	理解75% 興味78% 忘れ物チェック7講座で実施・プリント全講座で実施・新聞 作文現代社会で実施 評価(B)	理解・興味・関心を高めるためのプリント・小テスト・新聞等を用いた授業の実施数を増やす。	
		授業評価の「授業の内容を理解できている」生徒の割合を60%以上とする。学習到達度を向上させる。(数学)	週末課題、宿題の提出を徹底させる。復習を兼ねての宿題を毎時間出す。予習のやり方や必要性を機会をとらえ指導する。定期考査、課題テストや校外模試を十分に活用する。(数学)	授業評価 理解 よくできている 20% どちらかといえばできている 45% 計 65% 評価(B)	学習内容の難易度が上がる一方で、モチベーションが下がりがつつある。学習することの大切さを再確認させるとともに、わかりやすい授業となるように工夫し、週末課題等で学習時間の確保を図り、学習理解度や学習到達度を向上させる。	
		授業評価の「授業の内容が理解できている」「興味・関心を持った」生徒の割合を75%以上とし、学習到達度を向上させる。(理科)	教科内公開授業を行い、指導力の向上を図る。小テストを実施することで学力の定着を図る。実験実習の回数を各科目で学期に1回以上とする。(理科)	「理解できている」70% 「興味・関心を持った」75% 評価(B)	興味関心度よりも理解度が低くなった。小テストなどを通して、よりきめ細かい指導を実施する。	
		積極的にスポーツに取り組む姿勢を育成することを目標とし、授業評価の「授業に積極的に参加できている」生徒の割合を85%以上とする。(保体)	技術向上のポイントや、ゲームの進め方等を細かく指導するとともに、審判法や競技の特性など、各種目への興味を高める指導を行う。(保体)	「授業に積極的に参加できている」保健76% 体育97% 評価(B)	保健の授業について積極的に取り組めるよう、教材の工夫をする。	
		授業評価の「授業に興味や関心を持っている」生徒の割合を80%以上、「授業の内容を理解できている」生徒の割合を85%以上とする。(芸術)	授業に興味・関心を持たせる教材の精選と、理解度を高めるためにデジタルコンテンツ等を用いたり、模範を示して指導方法に工夫を凝らす。(芸術)	「興味関心を持っている」86% 「内容を理解できている」91% 評価(A)	教材の精選と模範を示してわかりやすく丁寧な指導を工夫する。余裕を持って授業準備に取りかけられるよう指導を徹底する。	

評価(達成度) A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(3)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
		授業評価の「授業に興味や関心が持っている」生徒の割合を75%以上とする。 スタディサポートの学習到達度B層以上を増やし、D層を減らす。(英語)	授業・松高セミナー・各種課題・小テストを通じて、基礎基本を定着させながら、同時に学力に応じた指導を徹底する。その時々やるべきことを具体的に指示しながら、予習・復習を奨励し、家庭学習の習慣を身につけさせる。また演習を充実させ、知識の定着をはかる。(英語)	授業への興味関心度 73% B層以上 1年生39→37 2年生 36→43 D層 1年生 76→72 2年生 78→65 評価(B)	生徒に興味・関心を持たせる指導法を研究する。入学後上位層を伸ばす指導について、工夫する。	各教科
		授業評価の「授業に興味や関心が持っている」生徒の割合を85%以上とする。 保育技術検定や家庭科技術検定を実施し、95%以上の合格を目指す。(家庭)	実生活に役立つ基礎的な内容を精選し、体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れる。 検定の意義を理解させ、合格を目指して練習をさせる。(家庭)	授業への興味関心度 91% 保育技術検定合格率 91% 食物調理技術検定合格率 100% 評価(A)	技術検定合格に向けて、生徒の意識を高めるとともに、指導方法を検討する。	
		ワープロ検定・パソコン検定の受検者数を増やし、合格者数20名以上を目指す。(情報)	1年生には授業で無料の検定模擬試験に挑戦させる。声かけをし、受検者数を増やす。目的意識をしっかりと持たせる。(情報)	検定合格者数 46名 評価(A)	1年生全員に無料検定に挑戦させ、関心を持たせる。	
		成績優良者の増加。(在籍生徒の6%以上) 欠点保有者数の減少。(在籍生徒の10%未満 [1学期末], 11%未満 [2学期末], 2%未満 [学年末]) (教務)	全校集会や学年集会において、目標達成に向けた取り組みについて考えさせ計画を立てさせるとともに、個別指導を行い自分の将来をイメージさせ、学習習慣を確立させる。また、学校行事の精選や実施方法の工夫、出張・年休の際、授業の振替を可能な限り行うことにより授業時数の確保を図る。	成績優良者 5.3% (1学期) 前年度比 -0.5% 4.2% (2学期) 前年度比 -1.1% 欠点保有者 6.3% (1学期) 前年度比 -4.3% 9.1% (2学期) 前年度比 -0.7% 優良者の割合が減少し目標には届かないが、欠点保有者は前年度より改善され、数値目標は達成することができた。 評価(B)	欠点保有者の割合の減少は丁寧な指導の成果であると考えられる。しかしながら優良者の割合も減少しており多様な生徒に対して個に応じた習熟度別の指導が必要である。また生徒の学習に対する意識の改革を促す指導、声かけを継続していくことにより全体としての上位層の伸長を図る。	教務
		読書習慣を身に付けさせて、読解力と思考力を養い、広い視野を持たせるために、年間読書冊数を1人平均9冊以上とし、図書館の図書貸出冊数を1人平均4冊以上とする。(図書・視聴覚)	図書館便りや昼休みの放送を通して広報を行い、入館者を増やす。また、国語の教科書に掲載されている作家コーナーや毎月テーマを決めた図書の展示コーナーを設置したり、生徒による図書の紹介や、「先生方からの推薦図書」を発行したりすることで、読書に対する関心を高める。HRの時間に読書の時間を年間を通して1時間設定する。	読書冊数一人あたり8.5冊 貸出冊数一人あたり4.5冊 読書冊数、貸出冊数とも昨年より増加した。(B)	図書館を利用した授業の促進、集団読書会用テキストの貸出を全学年に広げていき、さらに読書冊数の増加を図る。	図書・視聴覚

評価(達成度) A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標, 方策の見直し

(100%) (80%程度) (50%程度) (30%前後) (20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(4)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
		P T A 総会実施日に授業参観や進路説明会、学級懇談や個人面接を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解して頂く。役員会を年5回以上行い、情報を積極的に提供する。(渉外・福祉)	保護者の協力を求め、学校と家庭との連携を密にし情報交換を実施する。	本部役員会3回 役員会3回 年間6回の役員会を実施 評価(A)	保護者のニーズに合わせて情報を提供できるように工夫する。	渉外・福祉
		年間に授業研究週間を3回、生徒による授業評価を2回実施する。	授業研究週間を各学期に実施し、他の教員の授業を互いに見学し、教科会議で指導方法や教材等を研究・工夫し授業力の向上を図る。	授業研究週間3回 生徒による授業評価2回 実施 評価(A)	他の教員の授業を見学することにより指導力や授業力の向上を更に図る。	管理職
1 豊かな人間性と社会性の育成	社会の一員としての自覚を深め、互いに認め、共に高めあう、豊かな人間性を持った生徒を育成する。 ○基本的生活習慣の確立と挨拶の励行を図る。 ○心に響く人権教育と、いじめを許さない強い心の醸成を行う。	人権学習ホームルーム活動を充実させ、人権意識の高揚を図り、同和問題をはじめさまざまな人権問題解決のための意欲と実践力をもった生徒を育てる。また、講演会等の満足度を80%以上とする。 人権学習ホームルーム活動後の自己評価において、『真剣に取り組めた』生徒の割合を80%以上とする。	校内外の研修を充実させ、それを生かして生徒への授業や人権学習ホームルーム活動を充実し、生徒が主体的に取り組み、活動できるように内容を精査する。特に校外との交流を通して、校内人権教育のリーダーとして活動できる生徒を育てる。また、定期的に職員研修や人権問題講演会を実施し、『あわ人権学習ハンドブック』や『じんけん』を人権学習ホームルーム活動において有効に活用する。	人権学習ホームルーム活動満足度85%、人権問題講演会満足度は、評価できていない。感想文の内容では、ほぼ満足しているようだった。 評価(A)	生徒が自分自身の問題として、捉えられるように、3年間のホームルーム活動内容を練り直す。	人権教育
		問題行動が起こらないような環境づくりに努め、基本的生活習慣を確立させる。(一年間皆勤の者が全校生徒数の30%以上となるようにする) また、遅刻を減らす指導を徹底する。(遅刻延べ数を10%減少)	毎週水曜日を「自主・自律の日」とし、朝のHRで正副担任による服装・頭髪等の点検を行うとともに、日常的に声かけを行い、信頼関係の中で指導を行う。また、遅刻者については毎週毎に奉仕活動など内省する機会をを与える。	1年間の皆勤は全校生徒の約32% 遅刻数 延べ1396回 前年度比 約3割減 評価(A)	基本的生活習慣を確立させ松高生としての自覚を持たせるために、自主自律の日を活用したり、声かけや個別指導を通して、生徒の内面へのアプローチをし、意識の高揚や自己変革を求める。	生徒教育
		特別支援を必要とする生徒に対する組織的な支援体制の確立を図る。特別支援の職員研修を年1回以上行う。	全教職員の共通理解の下、支援プランに基づき、支援委員会やサポート会議を開く。	5月に特別支援の教職員研修を行い、生徒の共通理解を深めた。 評価(B)	新入生についての共通理解も全職員で早期に共通理解をする必要がある。	
		教育相談月間を年3回以上実施し、生徒理解に努め、生徒の自己実現を支援する。	教育相談月間等を利用して生徒と教職員の人間的なふれあいの中で生徒の自立を支援する。	4月、7月、12月に教育相談期間を設け、生徒理解に努めることができた。 評価(B)	気になる生徒に対して様々な機会を捉えて生徒の理解と支援に努める。	
		暴力やいじめを許さない環境作りをするため、学校生活アンケートを年3回行う。	アンケートを結果を基に、生徒の生活実態を把握する。	各学期末に実施し、全校集会・学年集会や部活動キャプテン会議等で注意を促してきた。 評価(B)	アンケートの結果を生徒により還元できるように工夫する。	
		担任会等において生徒の出欠状態など気にかかる生徒を把握し、管理職に報告・共通理解に努める。 学年共通の遅刻指導(週1回の分別回収への参加)を行い、内省する機会を与える。	気にかかる生徒については、早期に保護者との面談や家庭訪問を行い、特に不登校気味の生徒に対しては、意識が学校に向くような支援を行う。遅刻者に対しては分別回収(環境教育)への参加を通して内省の機会を与えるとともに、意識を高めさせボランティアの心を育む。	遅刻・欠席や気にかかる生徒については、家庭と密に連絡を取り、早めの対応を心がけた。また保護者面談や家庭訪問も必要に応じて行った。 評価(A)	遅刻者に対する指導の在り方について検討を行う。	1年 2年 3年

評価(達成度) A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(5)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
		HPに保健情報を各学期に1回以上掲載する。 保健に関するHR活動を年1回実施する。 教職員を対象として心肺蘇生法と緊急時の救急法の研修を実施する。	生徒の実態や季節に応じた保健情報を発信したり、文化祭での保健展を実施することで、各家庭や地域の健康に関する意識の向上につなげる。検査や検診の結果を家庭に通知した後、個別指導を粘り強く行い、心身の健康の保持や増進を図る。教職員がAEDを使った対応の仕方を学ぶと共に、緊急時に対応するスキルや能力を身につける。	要二次検診者に検診結果を2回以上通知し個別指導を行った。教職員がAEDの使用法を学んだ。HPへの情報掲載を1回行った。 評価(B)	今後、時宜にかなった保健情報の発信のあり方を考え生徒を対象とした研修を実施する。またHPへの情報掲載を毎学期1回行う。	保健厚生
		ゴミの減量とリサイクル活動を徹底する。 丁寧に清掃を行い、美しい学校を維持する。	環境ISO取得を受け、缶・ペットボトル分別回収・古紙回収を全委員会・全職員で行い、自己処理から徹底させる。クラスの環境目標を決めて教室掲示する。丁寧に清掃を行い、校内美化に努める。	概ね全委員会・全職員で分別回収活動ができた。一方で、自己処理は徹底できなかった。校内美化に努めたが、一部で汚れが目立つ。 評価(B)	担当生徒が、缶・ペットを教室で洗ってから持ってくるようにした。清掃用具にHRや場所を記載して、無断での持ち出しを防ぐようにした。	環境防災
		防災避難訓練を年2回実施し、様々な状況において対応できるよう内容を工夫する。 学校内外の清掃活動に積極的に参加する。	1回目は火災を想定し、避難経路の確認をする。2回目は地震津波対応の避難訓練を実施する。また、教職員の対応も含めて訓練する。ゴミゼロ運動や除草作業等を積極的に行う。	予定通り避難訓練を実施できた。特に第2回では、初めて地域住民を含めた訓練が実施できた。県まなぼうさい活動賞を受賞した。ゴミゼロ運動や校内除草作業もできた。 評価(A)	年間の活動計画がほぼ決まって実施しやすいが、マンネリ化する虞があるので、少しずつでも新しい試みを加えて継続的に行う。	環境防災
		実験実習時のT-T達成率を90%以上とし、安全な実験実習を心がけ、事故ゼロを目指す。	生徒に安全面に対する認識を深めさせ、実験実習時のT-T体制を確立させ、学習内容の理解度を高める。	実験実習回数74回 T-T達成率70% (演示実験除く) 事故回数0 評価(B)	協力体制をさらに充実させてT-T達成率を上げ、より細かな指導をすることで学力向上につなげる。	理科
部活動を奨励し学校を活性化する。	部活動加入率75%を目指す。	各部活動が魅力ある活動を展開するとともに、活動状況を紹介する機会を多く設定し、部活動への興味を高め、部員の勧誘に努める。	部活動入部率 75% (1年生に関しては94%) 部活動状況・成果の展示・発表 年6回 評価(A)	全体の目標は達成できたが、2・3年生の入部率は65%であったので、来年度入学生も高い入部率になるよう啓発し、全体の入部率のさらなる向上に努めたい。	特別活動	
	渡り廊下や食堂のスペースを活用し、部活動の状況や成果を展示・発表する機会を年に6回以上実施する。	大会への参加情報や成績等の報告、文化部の作品展示などを各部に呼びかけ、部活動の様子をできるだけ多くの生徒に知らせる。				

評価(達成度) A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%程度) D:まだ不十分(30%前後) E:目標、方策の見直し(20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(6)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
4 地域に信頼される開かれた学校づくり	学校が家庭や地域と一体となって生徒を育むという観点から、学校行事等の年間計画等の情報をリアルタイムで発信していくなど連携を図るとともに、地域社会との交流による地域貢献型学習を推進する。	生徒会が中心となって、松高祭「文化祭」の内容を充実させ、来場者500人以上を目指す。	専門委員会や部活動による発表や展示を充実させる。ホームページなどを活用し、卒業生、保護者、中学校、地域へのアピール方法を工夫する。	松高祭来場者数 573名 評価 (A)	中学生に、松高の魅力アピールできるような取り組みを行っていく。	特別活動
		小松島松原の育樹ボランティア活動を年7回以上実施し、全校生徒の50%以上の参加を目指す。	生徒会が中心となって、全校生徒に呼びかけ、ボランティアを募る。また、部活動単位での参加を呼びかける。また、課題となっている運動部以外の生徒への呼びかけを充実させ、参加人数を増やしたい。	松原ボランティア参加率76% ボランティア認証158名 評価 (A)		
		ボランティア活動に対する意識を高め、校外のボランティアにも積極的に参加し、ボランティア認証を受ける生徒100名以上を目指す。	ボランティア活動の意義や認証登録制度について説明する機会を持つ。実施日等について全校生徒に案内するとともに、生徒会役員を中心に参加者を増やしていく。			
		P T A総会の参加人数を135名以上とする。また、各学年において、保護者対象の進路説明会を実施し、その参加目標数を各学年60名以上とする。	P T A総会実施日に、授業参観や進路説明会、個人懇談や学級懇談を計画し、より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解していただくとともに情報も積極的に提供する。	P T A総会参加人数151名 (1年78名 2年36名 3年37名) 評価 (B)	総会参加人数は目標数を達成した。 1学年は目標数達成。 2学年3学年は昨年より減少した。	渉外福祉
		保護者対象進路説明会の実施。参加目標数60名以上。	保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人面談を実施する。	進路説明会出席者 138名 評価 (A)	保護者の進路に対する意識が高いので、早期に進路情報の提供を行う。	1年
	保護者対象進路説明会の実施。参加目標数60名以上。	保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。	進路説明会参加者 76名 評価 (A)	より多数の保護者に参加していただけるよう、案内の際に説明会の意義や具体的な内容についての周知に努める。	2年	

評価 (達成度) A : 十分達成 (100%) B : 概ね達成 (80%程度) C : 変化の兆し (50%程度) D : まだ不十分 (30%前後) E : 目標、方策の見直し (20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(7)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
		保護者対象進路説明会の実施。参加目標数60名以上。	保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人面談を実施する。	進路説明会参加者96名 (A)	進路実現に向けてより保護者の理解と協力が必要になるということを踏まえ、より多くの保護者に参加していただけるよう、事前周知に努める。	3年
		中学3年生を対象とした体験入学を実施し、参加生徒数の目標を300名以上とする。 参加生徒の「概ねよかった」という評価が95%以上、「よかった」という評価が65%以上となるよう内容を工夫する。	中学校への説明・広報活動を積極的に推進する。小松島市及び近郊の中学校と在校生の出身中学校へは年2回以上訪問し、学校案内・資料の配付も併せて行う。	体験入学参加生徒 314名(前年度比16名増) 「概ねよかった」96.3% (前年度比-0.7%)、 「よかった」72.8% (前年度比+10.1%) 評価(A)	中学生体験入学では、ほぼ、前年度の評価を維持し数値目標を達成することができた。次年度も今年度以上の評価が得られるよう、事前のPR活動や、また校舎見学、体験授業において在校生にも参加できるように工夫する。また今年度同様予備日も確保することにより、できるだけ多くの中学生が参加しやすい環境を整える。	教務
		保護者への情報提供を積極的に行い、連携を密にして生徒の指導にあたる。 「松高だより」を年5回以上発行する。	「松高だより」の内容を精選し、見やすく読みやすいものとする。	「松高だより」の発行 5回(12月現在) 評価(A)	「松高だより」については、12月末現在5回発行できており、年度当初に立てた年間発行計画どおりである。写真、図・表を取り入れより視覚的に、かつ伝わりやすい形を継続し、保護者との連携、共通理解を深める。	
		学校評議員・学校関係者評価委員会を2回実施する。	近隣の中学校の教員を委員とする学校関係者評価を行うことで、より客観性のある学校評価を行うとともに、地域の学校関係者との交流、中学校に対する学校情報の公開を行い、説明責任を果たす。	第1回(7/15)、第2回(3/19)学校評議員・学校関係者評価委員会を開催した。 評価(B)	学校評議員・学校関係者評価委員会からの意見・提言、保護者アンケート等をもとに、評価目標や具体的方策に取り入れる。	管理職
		ホームページ更新回数を50回以上とする。	多くの教員が更新に関われるように研修会を実施し、更新する内容を増やす。	ホームページ更新回数84回以上 評価(A)	担当を決めて内容を整理する。	情報教育

評価(達成度) A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)

平成26年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

(8)

重点課題	重点目標	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点	担当
	強い責任感を持って、充実した教育を展開するために、常に教職員の資質向上と教職員組織の強化を図る。	人権教育、特別支援教育等の校内研修会を年間に6回以上実施する。	人権教育ホームルーム活動の充実、特別支援が必要な生徒の組織的支援体制の確立を目指した、人権教育、特別支援教育等の研修を計画的に実施する。	人権落語講演会、校内意見発表会やPTA県外人権研修会への参加も含め、年間6回以上の研修会等への参加が行えた。 評価（B）	日常の学校生活の中での人権問題に目が行き届き、人権感覚が身につくような研修を実施する。	管理職
		学校全体で取り組む業務は、組織間の連携を図り、実施1週間前までに計画・立案・全体への周知を行う。	各課長、学年主任、教科主任、各種委員会委員長等との報告・連絡・相談を緊密に行い、主任等を中心とした運営体制を確立する。	大きな行事では実施1週間前までに計画・立案・周知を行えたが、他は不十分だった。 評価（C）	日常業務が多忙なときこそミスが起こらないように早めの計画・立案・周知ができるように運営体制を整える。	
		服務規律に関する研修会を年間6回以上実施する。	コンプライアンス、情報セキュリティ等の研修を充実させ、不祥事を未然に防止する職場環境を作り、教職員集団や個人の規範意識を高める。早めの声かけ、支援、諸問題等に組織的に対処し、相談しやすい職場環境とする。	服務規律や情報セキュリティに関する研修を含め、年間15回以上の啓発活動や研修を実施した。 評価（A）	学校の諸問題を、一人が抱え込むことがないように、相談しやすい風通しの良い職場作りを推進する。	
		交通違反・事故を「ゼロ」にする。	研修会等で交通ルールの遵守を徹底する。交通安全意識を高め、重大な交通違反や事故を未然に防ぎ、事故や違反があった場合は必ず管理職に報告させる。	不注意による違反や軽微な交通事故が、数件あった。 評価（C）	交通安全意識をこれまで以上に高めるよう、啓発に努める。	
		防災計画を策定し、危機管理研修を年3回以上実施することで、迅速・確実な対応ができるようにする。	避難訓練や心肺蘇生法研修等を計画的に実施し、普段からの対策と緊急時の対処法を職員に周知する。	避難訓練2回、心肺蘇生法研修1回実施 評価（A）	地域と一緒に取り組める防災訓練や避難訓練を工夫するとともに、緊急時の対応をマニュアル化する。	

評価（達成度） A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（50%程度） D：まだ不十分（30%前後） E：目標、方策の見直し（20%以下）